



ADM

頬骨や額、目尻、下まぶたなどに現れる太田母斑や異所性蒙古斑などに近い「あざ」の一種で次第に色が濃くなる。20歳以降の女性に多く発症します。Acquired Dermal Melanocytosisの略。



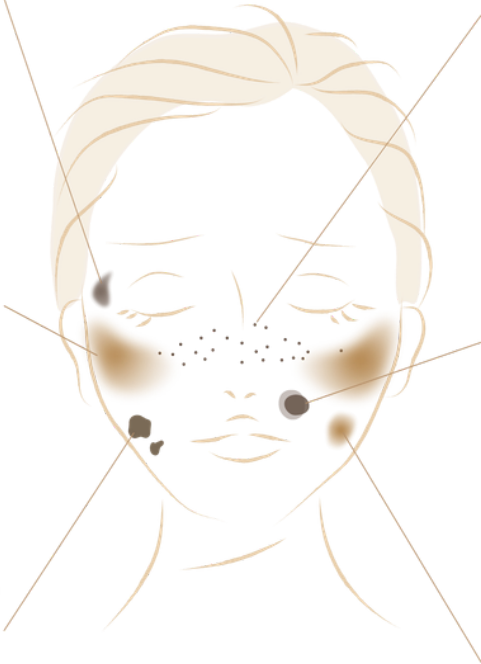
肝斑

30～40歳代の女性に多く、頬骨のあたりに左右対称にぼんやりと広がっているシミの一種。額や口周りに出現することもある。原因は、ホルモンバランスの乱れや紫外線の影響、摩擦といった刺激（洗顔時の擦る動作など）だと考えられています。



老人性色素斑

紫外線や加齢が原因で生じるシミの一種。特に、顔や手の甲、デコルテや肩など日光によくあたる部分に出現します。原因は紫外線のため、紫外線対策を行うことで予防可能です。老人性という名称ですが、20代後半から発症することもあります。



そばかす

主な原因は遺伝とされていますが、紫外線を浴び続けることによって、色が濃くなるなど症状が悪化することがあります。茶色の3mm～5mmの斑点が顔・胸元・デコルテ・肩など紫外線を浴びやすい場所にできるという特徴があります。



脂漏性角化症

老人性イボとも呼ばれるように、皮膚の老化現象によって生じる褐色～黒色の良性腫瘍。多くは、40代以降に現れます。老人性色素斑と異なり、やや盛り上がっているのが特徴です。黒子や粉瘤、ウイルス性のイボの可能性もあるため、自分で判断せず、医師による治療判断を受けてください。



炎症後色素沈着

皮膚に炎症が起きた後に、その部位に茶褐色や灰褐色、紫褐色のシミのような色素沈着ができる状態。ニキビや湿疹、虫刺され、かぶれなどの炎症後や火傷・外傷後のダメージにより生じます。通常半年から長くても1年以内には自然消失することが多いですが、肌の状態に長く影響することがあります。

